



昇段レポート

林健太郎 初段（岐阜太田道場）

～2017年12月3日取得～



この度は、昇段審査の機会を与えて頂きました太田師範には心から感謝致しますと共に昇段のお許しを頂き本当にありがとうございました。また審査会で10人組手の相手をして頂きました皆さん、応援をして頂いた道場生の皆さんにはこの場をお借りしてお礼申し上げます。

道場へ入門したのは35歳の時でした。家と会社の往復の刺激のない毎日、いつも楽な方へ逃げてしまう弱い自分を変えたい、そして何より学生時代に憧れた極真の黒帯をどうしても取りたいという強い思いがありました。しかし道場での稽古は自分が想像していた以上に厳しく、甘い世界ではありませんでした。自分には才能もセンスもスタミナも技術も全く無く、続けていけるだろうか本当に不安でした。今日は仕事が疲れたから稽古は休もう、体調が悪いから稽古は休もう、道場に向かう際は様々な葛藤がありました。弱い自分が出る度に太田師範や先輩方の昇段レポートを読み、自分を奮い立たせて道場へ向かいました。

試合では、練習してきたことが全く出せず情けない負け方することもありました。悔しい気持ちから明日から毎日走ろう、補強を週三回やろうと自分に目標を課すのですが、日が経つにつれそのモチベーションも下がりだんだんやらなくなりました。対戦相手に勝つ事よりもまず自分の弱さに勝つ事が難しく、自分より厳しい環境の中で努力をされている先輩方、常に体調に気を配りながら必死で稽古をされている自分より年配の方々の姿を見る度に自分の未熟さが本当に情けなくなりました。帯が上がるにつれ少年部を教える機会を頂きました。教える子供によって熟練度やその日の気持ちの入り方などが全く違う為本当に根気が入りました。また稽古中は自分だけではなく常に周りを気にして見ていないとその子にあった適切な教え方ができず、教える事の難しさ、太田師範の大変さを改めて感じると同時に自分も大変勉強になりました。

太田師範から審査のお許しを頂いた際は「昇段審査は倒されたらそこで終わりだからそんなに甘くないよ」とお言葉を頂き、悔いだけは残らないよう昇段審査までは今まで以上に稽古をしました。今自分にできる事は何でもやろうと思ひ、時間が無い時は会社の休み時間を利用して自主トレを行い、食事・睡眠時間など体調管理には特に気をつけました。

審査当日は緊張感からの睡眠不足と腹痛で思うように体が動きませんでした。10人組手では太田師範、道場生の皆さん、対戦相手の方一人一人から温かい言葉をかけて頂き、何とか最後まで立っていることができました。太田師範から昇段の許可を頂いた時は、うれしさと同時に身が引き締まる思いでした。体調が悪い時もありました。仕事のストレスで稽古を休もうと思った日もありました。試合で情けない負け方をして悔しい思いをしたことも何度もありました。これまで決して順風満帆ではありませんでしたが、逃げずに続けてこられたのも良き師、良き道場生に恵まれ支えて頂いたからだと思ひます。

今後は、極真の黒帯に恥じないように今まで以上に稽古に励み、さらに上を目指して頑張りたいと思ひます。最後になりますが、太田師範をはじめ道場生の皆様、支えてくれた家族には本当に感謝しています。 ありがとうございます。

押忍